

本誌への投稿論文は複数の委員からなる編集会議で丹念に採択を審議されるため、自然と呼吸器外科医の私も消化器領域などの多くの論文に触れることとなる。専門外の領域に関しても論文内容を理解するように努め、審査中の議論を聞いていると、いつの間にか知識が身についてくるものである。論文の内容は内視鏡手術関連のものが大半を占めるが、疾患の病態、画像所見に関しても手術法と同時に知識を吸収できている。

手術は手術室で始まるのではなく、正しい診断から始まると思っている。それに基づいて論理的な治療戦略を立て、基本に則った手術手順を行い、それでも計画通りに進まない状況になったらいかにリカバーするのかまで、術前から想定・演習する必要がある。建物を建てる場合も地形、面積に始まり予算や希望を加味しながら設計をし、材料を調達する。すなわち実際の建築作業の前にも「計画」という大きな工程があるのと同様である。

一方で臨床に想定外の事象は起こりうるもので、その際は知識と経験、決断力を発揮して解決していく。このような場面における洞察力は自らの体験を通して身につけるものであり、地道な術前思考の蓄積も能力の育成に不可欠と考える。また術中においては、きちんと準備を行った術者と助手であれば、強い連携により1+1が2の力に留まらず、3にも4にもなるものである。

新たな専門医制度の時代が訪れようとしている。専攻医に十分な経験と知識、人格を身に付けさせる研修プログラムが作成され、優秀な専門医を育成するというポリシーが鮮明になっている。外科医には己の技術向上に留まらず、助手と上手に連携し、術者としての潜在力をいかに最大限まで引き出せるかという視点も同時に有して欲しい。

内視鏡手術は現代の標準手術となった。いつの時代も、術前からの診断、術野の想定、術中の助手との相乗的な連携など、手技と同等に極めるべき課題は多い。これらの総合力を有する外科医を学会誌を通じて支援できれば幸いである。

(池田徳彦)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第20巻 第4号) 2015年7月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 定価: 本体 2,800 円 + 税 * 会員には毎号送付されます。

2015年 年間購読料: 冊子版 16,380 円 + 税, 電子版/個人 16,380 円 + 税, 電子版/共有 18,840 円 + 税, 冊子 + 電子版/個人 19,380 円 + 税, 冊子 + 電子版/共有 21,840 円 + 税 (配送料: 医学書院負担) * 会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北野正剛)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18 階

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1302 E-mail: jses@convention.co.jp (担当: 野上)

<http://www.jses.or.jp>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 18 F-1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2015, Printed in Japan

発売: 株式会社医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 水野, 安部) <http://www.igaku-shoin.co.jp/><http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

・本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は日本内視鏡外科学会が保有します。

・**JCOPY** (社) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社) 出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

高度肝機能障害を有する肝細胞癌症例に対する腹腔鏡下肝切除術の

治療成績 田中肖吾・他 大阪市立大学大学院肝胆膵外科学

●症例報告

腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術後に後腹膜経路にて挙上した腸管に穿孔を来し

汎発性腹膜炎を呈した 1 例 中村友哉・他 大和高田市立病院外科

胃癌合併 Bochdalek 孔ヘルニアに対する助手補助

腹腔鏡下手術による一期的根治手術の 1 例 堀 直人・他 岡山大学大学院医歯学総合研究科消化器外科学

術前に右鼠径ヘルニア偽還納と診断し腹腔鏡下手術を行った 1 例 早田篤司・他 東海市民病院外科
食道と S 状結腸の同時性重複癌に対し内視鏡下に一期的切除再建を施行した

1 例 松本大資・他 徳島赤十字病院外科

腹腔鏡下に治療した胃石を伴うイレウスの 1 例 櫛引敏寛・他 市立旭川病院外科

脾頭部嵌頓による胆汁うっ滞を伴った巨大食道裂孔ヘルニアを腹腔鏡下に

修復した 1 例 武山大輔・他 石巻赤十字病院外科

腹腔鏡下修復術が有用であったスピーゲルヘルニアの 1 例 田崎達也・他 JA 広島総合病院外科
脳室腹腔シャントを有する胃癌患者に対して

腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した 1 例 風間義弘・他 日本赤十字社医療センター胃・食道外科
消化管出血を伴った孤立性胃粘膜下異所腺に対し腹腔鏡・

内視鏡合同胃局所切除を施行した 1 例 西崎大輔・他 洛和会音羽病院外科

●手術手技

近赤外線蛍光内視鏡イメージングシステムを利用した

腹腔鏡手術前マーキングの経験 小澤慶彰・他 昭和大学消化器・一般外科

細径デバイスを用いた total extraperitoneal inguinal hernia repair (TEP) 小島成浩・他 東大宮総合病院外科

他数編の掲載を予定。但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。